

# KTK ひゅうまん 京都

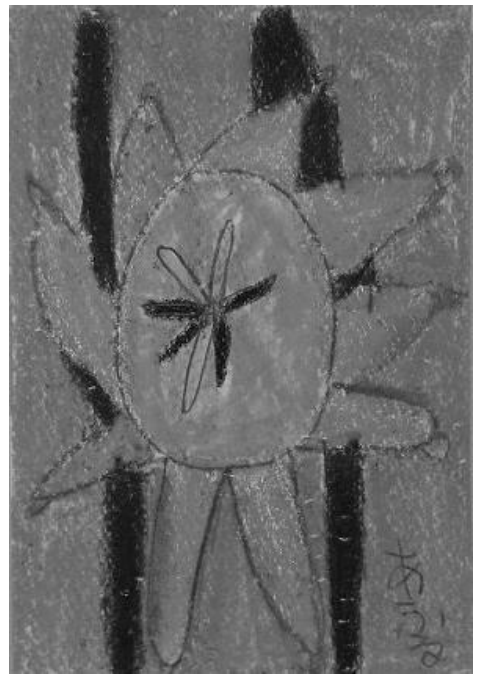
No. 523 2020年6月号

編集/京都障害児者の生活と権利を守る連絡会 〒603-8324 京都市北区北野紅梅町85 弥生マンション内  
編集発行責任者/池添 素 電話&FAX(075)465-4310 購読料 1部80円 年間購読料1,000円(送料実費)

- P.1 左大文字 つどめ
- P.2 常任委員会から 池添 素
- P.3 「ふつうのくらし」を求めて 大西里江
- P.4 車いす視点から社会を斬る 88 矢吹文敏
- P.5 コロナあれこれ 池添 素
- P.6 身体の老化は足から始まる 大江智子
- P.7 2+2=詩 赤富士文兼
- P.8 つれづれあらぐさ 中山 恵美子
- P.9 背中を伸ばしてひとと一緒に歩む 64 すぎな
- P.10 365歩のマーチ 安藤 史郎
- P.11 知っ得情報 松本 美津男
- P.12 ありがとうございます  
僕にとっての「自立生活」 井上吉郎

## 左大文字

岡田美智雄さんの『弱いロボット』の思考(講談社現代新書、2017年)をテキストにして、オンライン授業にモタモタしている▲私が初めて岡田さんの研究を知ったのは『弱いロボット』(医学書院、2012年)。工学者の手による作品が、医療介護を専門に扱っている出版社のそれも「シリーズケアをひらく」の一冊として世に出たのはどういふことなのだろうか。疑心暗鬼でページを捲ってみて、驚いた▲ゴミを拾うことができずにマゴマゴしているゴミ箱ロボットをみて、保育園児たちが誰に言われるまでもなく率先してゴミ拾いを手伝い始めた、というのだ。ヒトのケアする心と行為を引き出す弱いロボットの凄い力。以来、私はこのテーマを話題にして、今年もそうだが何度か学生たちの演習テキストにしてきた▲私たちは、人はひとりでは生きられないとよく口にするが、なぜそうなのか、なぜ人は他者や外部環境を必要とするのか、については深く考える間もなく、全く前提的だ▲内なる視点から見ると、私たちの身体や自己というのは完結したものではないということへの内省である。そんな心身にまつわる不完結さが周りとの関わりへと駆り立てていくのだ▲人に埋め込まれた弱さこそが人を人たらしめていることを岡田さんの「弱いロボット」は教えている。コロナ禍のいま特に実感する。 つどめ



「チューリップ」  
渡辺あひる

# 常任委員会から

〈米や世界は怒っている〉

怒ってないのは日本だけかもしれない。一人の黒人の命を警官が奪ったことを発端とする、

黒人差別に対しての怒りで世界は怒りに満ちている。そして「これは白人の問題だ」とのコメントを添えて作品を発表した、謎の路上芸術家バンクシーの言葉が心に刺さる。黒人の問題ではなく、非黒人の問題である、この問題の本質を言い当てていると思う。白人社会が変わらなければ、黒人差別問題は解決しない、まさにそうだ。そのために人種を超えて、世界が連帯して抗議し、米の警察官もひざまずいて連帯の意志を表明した。誰もが黙っていないで、自分事として考え、行動している世界が今ある。どの国も日本と同じよ

うに新型コロナウイルスと闘いながら。そして、警官の暴力により死亡した方の弟さんの訴えも心に響く。「暴力をやめて、投票に行こう！」

## 〈二分する社会〉

このコロナ禍は「白人と黒人」のように社会を二分することが

ないと。自分がどちらの立場であつても、弱い相手のことを考えられる社会が成熟した社会なのではないかと考えた。「障害のある人と障害のない人」も同じように考えるとわかりやすい。障害のない人が障害のある人のことを考えることが障害者問題の解決なのだ、当たり前のようなことにアメリカの怒りから気が付いた。「障害者問題は障害のない人の問題だ」と改めて声をあげたい。その昔、障害者自立支援法ができて、大きな怒りが沸き起こったとき、京都で生まれたスローガンは『金ないモンから金とるな!』でした。あとで作った下の句は『金あるモンから金をとれ』金ないモンの問題は金持ちの問題なのだ!と。これもわかりやすいと一人で喜んでいても、社会はかわらない。

このコロナ禍は「白人と黒人」のように社会を二分することがなく、非黒人の問題である、この問題の本質を言い当てていると思う。白人社会が変わらなければ、黒人差別問題は解決しない、まさにそうだ。そのために人種を超えて、世界が連帯して抗議し、米の警察官もひざまずいて連帯の意志を表明した。誰もが黙っていないで、自分事として考え、行動している世界が今ある。どの国も日本と同じよ

育園に預けたくはないが、病院の事は休めないや我が子の面倒をみたいが保育の仕事は休めない。自分がどちらの立場であつても、弱い相手のことを考えられる社会が成熟した社会なのではないかと考えた。「障害のある人と障害のない人」も同じように考えるとわかりやすい。障害のない人が障害のある人のことを考えることが障害者問題の解決なのだ、当たり前のようなことにアメリカの怒りから気が付いた。「障害者問題は障害のない人の問題だ」と改めて声をあげたい。その昔、障害者自立支援法ができて、大きな怒りが沸き起こったとき、京都で生まれたスローガンは『金ないモンから金とるな!』でした。あとで作った下の句は『金あるモンから金をとれ』金ないモンの問題は金持ちの問題なのだ!と。これもわかりやすいと一人で喜んでいても、社会はかわらない。

## 〈コロナ禍対策は醜い〉

マスクも10万円も遅いが、そ

れ以上にトンネルでピンハネしている企業やさせている安倍政権はほんとに醜い。全部、将来のつけにしているから、若者に申し訳ない。ナオミ・クライン著『ショックドクトリン』(惨事便乗型資本主義を暴いた本)は以前難しかったので途中で読むのをやめてしまつたが、もう一度読み直さなければ、いま日本で起こっていることは、まさに惨事に便乗してふところを太らせている安倍政権を取りまく政治と経済の動きだ。

「怒ってないのは日本人だけ」の冒頭に書いた言葉と、「怒るだけでなく投票に行こう」をもう一度記して、ポストコロナに立ち向かいたい。

池添素(京障連事務局長)



## 「ふつうの暮らし」を求めて 6

大西 里江

### 〈社会が崩壊するのでは〉

重症の娘が入院するたびに、私は感染予防の指導を受けてきました。ノロウイルスや新型コロナウイルスエンザのときは、ワクチンや治療方法が短期間にできました。今回の新型コロナウイルスは未知のことが多く、今まで行ってきた感染予防でちゃんと予防できているのが不安になります。

人はいろんな闘いを経験して、乗り越えてきました。大戦後の日本はどんな社会で、どんな暮らしをしていたのかを祖父母、父母から聞いたことがあります。人は人を使い、助けあって生きてきましたが、新型コロナウイルスは、目には見えない、見えない相手との闘いだと思います。

先日、医療機関の知人のことが心配になり、この状況で大丈夫かとメールを送りました。返信の内容は、想像以上で、とても厳しい内容でした。「今日、三週間ぶりの休みです。休みですが、部屋から出さず引きこもっています。それは、自分が感染すると現場がたいへんなことになるので、看護師さんは家にも帰れない人もいます」とのこと。

急病やケガで救急車に乗っても、受け入れられる病院がない。これはもう医療崩壊が始まっています。このまま、何の対策も打たれないままになると、医療崩壊が広がり、社会が崩れてしまうと私は危惧しています。社会全体が落ちつかないと、守るべき命が守れなくなり、特にもつとも弱いといわれる方の命が守れなくなり、特にもつとも弱いといわれる

### 〈いま自分ができること〉

新型コロナウイルスとの闘いは一年以上かかるかと思っています。ワクチンや薬が確立できるまで、この状態が続いていくでしょう。そう考えると、その間どうやって命を守っていくのが問われます。このコロナウイルスによって大きく変えられる社会で、人の力、人の本質が試されていると思います。

今自分ができることを考えると、「守るべき命を守る」、「でも、今は会えない」。手元にその命が見えない状況でも、守ることができする方法はないだろうか。病院や施設に、本人の様子を映したビデオをお願いすることも考えましたが、もともと、どちらも人出不足、そのうえ休校などで、さらに職員は少なくなっています。職員さんにお手間をかけない方法で、二人に会えない間、私の気持ちを伝えることを考えてみることにしました。

寝たきりで身体を自由に動かすことができない二人に、どうすれば私の気持ちがちやんと伝えられるかを考えました。二人に寄り添っていたいけれど、会えない今、不安な気持ちを少しでも和らげることはどんなことかを考えると、重度であっても二人とも視覚はしっかりしているので、メッセージカードを送ることにしました。二人とも私の文字や絵はよく知っています。それぞれのよく見えるところに貼ってもらうことにしました。「私は元気、大丈夫」というメッセージを送ることで、心配している二人の不安が少しでも和らぐことを願いました。

# 車いす視点から社会を斬る!

矢吹 文敏(日本自立生活センター)

「たかが猫、されど猫」

北側のベランダに古い車いすを置いていたら、二、三年前からその上にいつの間にか野良猫が住み込むようになった。毎年

ドを外へ持つていく。しばらく猫に遊んでもらって部屋に帰るのだが、ある日、その猫も一緒に入って来るようになった。

食事をした後、いつものよう

のように縄張り争いがあり、知らない間に別の猫が座つていて、以前の猫の姿が見えなくなったりする。

に家に入つて来て、ニャーニャーニャゴニャゴ啼きながら部屋を一回り点検し、玄関マットで爪を研ぎ、テーブルの脚や柱に身体を擦り付け、何かしら平然と帰つて行く。

☆

最近、テレビの朝ドラが終わる頃、その野良猫がベランダ側の入り口に毎日やつて来て「ニャーニャー」と啼きたてる。いつの間にか連れ合いが野良猫に餌(食事)をやっていたとのことで、時間が来ると催促に来るよう

戸を開けると、早速に猫さんが入つて来て、連れ合いを探すように見渡し歩きながら彼女の椅子にヒョイと乗っかって、くつろいだ感じで、二、三分間過ご

うだ。

一時間以上遅く起きる私が網を掛けると、早速に猫さんが入つて来て、連れ合いを探すように見渡し歩きながら彼女の椅子にヒョイと乗っかって、くつろいだ感じで、二、三分間過ご

うだ。

つまり、わが家では、このルールやマナーに明らかに違反していることになるわけで、このよう

うだ。

つまり、わが家では、このルールやマナーに明らかに違反していることになるわけで、このよう

してから帰つて行く。

もしかして、私がここで急に倒れたり何かの事故になった場合、この猫はその急変を誰かに知らせられるだろうか。本当にそんなことが可能なら、「野良猫」と言わず「見守り猫」として感謝したいものなのだが……。

……。

ただ、ここに大きな問題がある。

もちろん、犬や猫が嫌いな人もいるわけで、他人への迷惑や住宅を引越した後に入居する人のことを考えれば、このルールも間違つたものではない。

実は、私が住んでいる市営住宅街は、ペットを飼つてはいけない場所であり、野良猫などには餌をあげないで下さい、とはつきり言われている地域でもあるのだ。

とすれば、今のルールを厳密に強硬に履行しようとする、数十数百世帯の方々が公営住宅を出なければならぬことになる。

つまり、わが家では、このルールやマナーに明らかに違反していることになるわけで、このよう

とすれば、今のルールを厳密に強硬に履行しようとする、数十数百世帯の方々が公営住宅を出なければならぬことになる。

つまり、わが家では、このルールやマナーに明らかに違反していることになるわけで、このよう

とすれば、今のルールを厳密に強硬に履行しようとする、数十数百世帯の方々が公営住宅を出なければならぬことになる。

つまり、わが家では、このルールやマナーに明らかに違反していることになるわけで、このよう

とすれば、今のルールを厳密に強硬に履行しようとする、数十数百世帯の方々が公営住宅を出なければならぬことになる。

つまり、わが家では、このルールやマナーに明らかに違反していることになるわけで、このよう

とすれば、今のルールを厳密に強硬に履行しようとする、数十数百世帯の方々が公営住宅を出なければならぬことになる。

# 「コロナあれこれ」

## 〈変わったJUNの1〉

「コロナ禍の下、感染拡大を予防するために世界中の人々が生活様式の変更を迫られました。マスクが生活に存在しなかった国にも普及し、手洗いや換気の励行もいつも以上に強調されました。そして、一番変更を迫られたのは人との距離感です。ソーシャルディスタンス（訳が分からず、間違い英語）は、人々を洗脳し、人と人との関係を自粛させた言葉でした。「社会的距離」など、すごく抽象的なのに、あれだけみんなを納得させたのです。

生活様式は働き方も変えました。「ながら」には便利と不便、得意と苦手があるようです。6割のうちまく回せた人は在宅ワークが良いとし、はじめは嫌がっていた私も、「これええやん」派になって

しまいました。

## 〈変わったJUNの2〉

私は2つの大学で非常勤講師をしています。自粛は大学も同じで、前期はすべてオンラインでという方針が出され、そのスキルが送られてきました。70歳近い私には、2つの違うやり方を示され、チンプンカンプン。「これは絶対無理!」とお手上げ状態でした。しかし、逃げるわけにはいかず、向き合うことになりました。A大学の、私にやさしく教えてくれる先生は、「B大学のより簡単ですから」と

とささやき、B大学の担当者は手取り足取りでした。やるしかないと腹をくくり、オンライン授業をはじめました、とはいえ、他の方のようにパワポなどを駆

使った授業はできません。30分ほどの話を録画してそれを視聴してもらった方法にしました。今はやりの無観客試合ではなく、無観客授業です。見て、聞いて、役に立つ時間にしたと思い、努力はしますが、目の前の学生さんの反応をみながら話すのとは大違い。ほんとの一方通行で、ディスタンスの取りすぎです。最後まで学生さんに会わず、これでよいのかと疑問はあるのですが、慣れてくると、めっちゃ便利ー学生さんの側からすると、どこでも、いつでも、どんな状態でも（寝ころびながらでも）授業が受けられるのです。これって大学まで出かけてくるのが大変な学生さんにも有効と思いました。あくまでも授業のクオリティが維持されることが前提です。この話をしていたら、職場のスタッフで大学生の子どもを育てている人は、「オンラインで同じ授業料は納得できない、半額やったら納得」という意見が出

## 〈変わったJUNの3〉

マスクも10万円も、困っている人には遅すぎです。一刻も早く現金を手元に届けてあげてほしい。しかし世の中には、生活様式や働き方は変わったが収入は変わっていない人も多いはず。その方々は、降ってわいたように銀行口座に振り込まれた10万円をどうするのでしょうか。全部とはいいいませんが、せめて、少しでも人の役に立つ使い方をし、ディスタンスを近づけたいと願っています。困っている団体はたくさんありますよ。

池添 素(京障連事務局長)



# 身体の老化は足から始まる

弁護士・大江智子

ジョナさんの車いすの昇降機能をめぐって、利便性の向上やQOLの向上、介護の軽減というだけでは、昇降機能を付加する費用を支給するための理由に当たらないという主張が被告からなされています。具体的には店舗で商品を見る、エレベーターのボタンを自ら押す等といったことを昇降機能で解決するのはQOLの向上に過ぎないというのです。

☆

人の身体は負荷をかけ続けることで老化していきます。身体の中で一番早く老化が始まるのは足だと言われています。成人の平均体重60kgの重みを2本の足で支え、一生に地球を4〜5周分も歩くため、最も負荷がかかりやすいのです。

これと同じように、無理な負荷は障害の進行（体の老化）を早めることとなります。例えば、腕を上げて物を取る、絵を描くという動作は、重力に逆らって筋肉を動かすことになるため、筋肉の疲労を招きます（健常者でも長く腕を上げていたら疲れてしまいますね）。特に、ジョ

ナさんのような厳しい障害のある方の場合、ただ座っているだけでも体に無理な負荷をかけています。筋肉の疲労をできる限り軽減するためには、筋肉の動きを他の物で代替する必要があります。昇降機能の登場ですね。昇降機能を用いて、体の高さを上げるだけで、無理をすることなく物を取ることができ、腕を動かせる範囲がとて狭く、「手を延ばせば取れる」範囲も限られています。手を延ばす代わりに、昇降機能を使うことで、筋肉にも無理な負荷をかけることなく、物を取ることができ

筋肉の補完という意味では、もはや座位中に臀部にかかる体圧を分散させるために用いるリクライニング機能と同程度に重要な機能といえますよね。このように、筋肉の代わり、身体機能の補完ともいうべき昇降機能

の効用は、単に、便利だから、QOLを高めるというレベルのものではなく、生きていくために必要不可欠なレベルのもので、

☆

コロナの影響で裁判も少し先になっっています。その頃には、もう少し外出の危険がおさまり、皆様に傍聴にお越しいただければと期待しています。

次回裁判は7月13日午後15時より京都地裁にて。



# 2+2=詩

「生きていくから」

苦手だったものが平気になって  
好きだったものがどうでもよくなる

自覚も何もないままに僕たちは  
変化して。

成長して。

劣化して。

気づけばがらりと変わっている

「生きるために」

訂正をください

模範をください

手本をください

正答をください

分からないことだらけで

曖昧でぐちゃぐちゃ

正しいことがあるのかもわからないくせ

やっつてはならないことだけは

山のようにある

世の中をうまく生きていくための

何かをください



「二色だけ」

雲一つない晴れた空。どこまでいっても青一色

若葉の季節の山肌は、端から端まで緑一色

眺める僕の視界の中は、今その二つだけで占められている

ぐちゃぐちゃと悩みや恐れや苛立ちが

入り混じった灰色の気持ち

見ている間だけは吹き飛ばすような

単純で分かりやすく気持ちいい

青と緑。二色刷りの世界

「灰色の道」

時計は勝手に動いている。時間は止まらず進んでいる

時計を止めても時間は止まらず、

転がる巨岩のように僕を追い詰める

未来が胸を押しつぶす。将来が首を絞めつける

嫌なことばかりが襲ってくる。嫌なことばかり覚えていく

確かにあったはずのいいことは、

何十倍もの数の悪いことに押しつぶされて

あとから思い出せるのは嫌な記憶と苦い思い出ばかり

不安ばかり。不満ばかり。

不幸ばかりが増えて増えて染みついて

僕の人生はすべて灰色に染まって見える



# つれづれあらぐさ

あらぐさ福祉会は長岡京市にある社会福祉法人で、障害のある人たちの暮らしを支える事業を行っています。1986年に無認可の共同作業所を開所して以降、日中の通所から生活の場、ヘルパー事業所等、地域で暮らし続けるために必要なものを作り出してきました。今回の連載開始にあたり、「障害者の喜びと悲しみ、家族の喜びと苦悩、職員の働き甲斐と先が見えない苦悩…そういうことが浮き彫りになればと思います」とお話をいただきました。日々自分が経験していることや感じていることを通して、それぞれの一場面を綴れたらと思います。なお、内容については個人情報に配慮して構成しています。

## 場面⑥ ババ抜きを真剣勝負をする

「他人に興味ない」が口癖の彼とは、トランプで勝負する仲です。「今から行くわ」と時々やって来ては、話をしたりトランプをしたりしています。2人でするババ抜きは、ジョーカーが行ったり来たり心理戦です。カードを並べ替えたり手で隠したり、お互いに相手の様子を探りながら一喜一憂しています。勝負がつくまで、本気で盛り上がります。

「俺って支援してる？」を繰り返す彼に、当初は「支援者の役割」を説明したり、「支援出来ることリスト」を作ったりしていました。支援の内容を具体的に伝えれば、彼がしんどい時や困った時に少しでもサポート出来るかもしれないと思ったのです。

でも、実際はそうではありませんでした。多職種・多機関が彼に関わっている中、「俺、全部自分でやっってるし」「支援者と関わって良かったことなんて、一個もない」と繰り返します。大人になって知った障害のことは「何とも思っていない」そうですが、「いろいろ損やん」と話します。「いろいろ」の内容を尋ねると「分からん」の返事ですが、社会や人の関わりの中で感じていることがあるようです。障害福祉サービスの書類のやりとりでは、「そんな紙切れ一枚で、人生変わらへんやろ」といつも言われます。

「電話すんの、めんどくさ」と言いながら、ほぼ毎日彼からかかってくる電話とメール。その日の予定や食べたものから、会話が始まります。共通の話題であるサツカーは、新型コロナウイルスの影響で開幕延期となつているので、今シーズンはJリーグ談義が出来ず残念です。最後はたいい「バイバイ、おばあちゃん」で結ぼうとするので、こちら

が「おばあちゃんではありません」とツツコミを入れて終わります。

いろいろ思い悩むこともありすが、関わり続ける中で見えてくるものがあるのかもしれないという考えに至りました。トランプやオセロを楽しんだり、サツカーのルールを教わったり、クイズに答えたり：そんな日々を積み重ねています。「支援には正解があるとは限らない」とはいふもののこれいいのか、自分に何が出来るのか、確信がもてません。

☆

そんなある日の電話の後、「中山ちゃんには言つてないけど、話してちょよつと楽になることがあるよ」とメールが届きました。

そうであれば何よりですが、実際のところは分かりません。ただ、この一言が、今の自分を励ましているのは間違いないと思います。

中山 恵美子（あらぐさ福祉会）



# 背中を伸ばつてついでに一緒に歩む

## すぎな（訪問看護師）

### 64 取説

私は、若いころ、電化製品などについてくる取扱説明書を読むことにハマった時期があった。何故が理由はよくわからない。新しい製品を買ったときは、製品を開けるより先にまず取扱説明書を開けて熟読していた。

しかし読むだけで、結局製品そのものを触ろうとしなかったの、使い方が一向に解っていないことが多く、家族からいつもからかわれていた。

☆  
つい最近のこと。終末期の在宅療養を希望されて、高齢の男性の訪問看護の依頼があった。その方の病状は、がんや難病ではなく、加齢に伴う衰弱であった。ただし、あらかじめ本人の意志で、延命治療を拒否する意

向を文書で作成されていた。普段から家族で、「こういう終わり方をしたい。」と自分の人生の閉じ方を話しておられたという。

今回は、急に体調を崩し病院に運ばれたが、病状は重く本人は意識を失ったままとなってしまう。病院で、意思表示が困難

な本人に代わって、家族が代理意思決定をした。「家に連れて帰って、家族のもと看取ります。」その言葉通り、自宅で数日過ごし、遠方の家族とオンラインで気持ちを通わせ、近くの家族に手厚くケアされて、旅立たれた。

一方で今回の感染症、家族や地域から隔離されたまま、旅立つ人もいる。医療従事者が一生懸命寄り添ってケアしていると

であり、不安や魂の痛みをケアすることができたとは思えない。家族・本人、医療従事者、双方の無念を思うとかけ言葉が見つからない。

\*

私自身は、取説は読むだけで十分活用していたとは言いが、今から先の人生を考えると、いつか来る自分が自分を取り扱

えなくなる時のため、家族や近い人たちが困らないような準備が必要と思うようになった。それには、「私の取説」を作成して、必要時活用していただくのが良いのではないか。「私の取説」は、時々取り出して更新が必要なもの、いつでも自分で内容の差し替えができるものでなくてはならない。また、使う人が、必要時見つけることができる方法で、保管されていない程度家族の中で共有されている必要がある。市販のエン

ディングノートやリビングウイルスを使うのも良いが、「私の取説」なので、私らしさにはこだわり。もちろん、感染症で隔離されてしまったときに備えて、言い残しておくべきこと（主に謝罪）も忘れてはならない。

☆

いつか来る、今の日常の果てとしての自分自身の老いや死ということを、逆らうのではなく、ただ流れるまま受け入れるのではなく、静かに備えて、今を丁寧に生きるために。



# 365歩のマーチ



名は「先天性眼瞼下垂」というものでした。(お医者さんって結構はつきり言うんだなあ、別に気にしてないけど!)とやや強がりながら帰路につきました。

## 3 センテンセイガンケンカスイ?

うまれたときは、左目はぱっちり、右目がほとんど開いていなかったゆいちくん。目の開きには左右差がある：ということだったので、様子を見ていましたが、日がたつにつれて少しずつ開いてはくるものやはり左目とは明らかにちがう。父も左目に比べると右目の方が小さいが、これは中学生の頃にバットを思い切りぶつけてお岩さんのように腫れたのが原因だしなあ：と考えながら「赤ちゃん 目 開きづらい」などとネットでよく検索をしていました。

との助言をもらい、数日後大きな病院へ。(なんて言われるんだろ(うか)。病院はいつ行ってもドキドキします。名前が呼ばれ、診察室に入ると、まだトビラを閉め、か閉めないかのうちに「残念ながら、まぶたの筋肉が生まれつきゼロですね」という言葉が飛んできました。(どんなこと言われるのかな?)とドキドキしていた気持ちは一瞬で吹っ飛びました。その後「センチセイのガンケンカスイです」と必殺技のような言葉が飛び交います。

その後しばらくは、気になるけどそこまで：でも気になる：ともやもやしていました。そんなとき、偶然にも職場の同僚の子も眼瞼下垂ということがわかり、「うちは病院でこう言われたよ」などいろいろ情報交換ができました。(同じ悩み・もやもやをもつ親同士で話すと楽になれるものだな)と心が軽くなるのを感じました。今は、そんなゆいちくんの顔に見慣れたこともあり日々の生活では右目のことはあまり気にならなくなりました。：不思議なもので、エレベーターの鏡に映る顔を見ると、いつもとは左右逆に映るために左右差がはつきりわかったり、散歩に行ったらときなどに「あらあら、おめ腫れちゃってるの？」など声をかけられることで(あーそうだった)

た)と思い出したりします。  
※  
寝る前にふとんの上で立つ練習をするのが日課のゆいちくん。たかばいになってから“よしよ”と立ち上がると、大人から見ると(何がそんなにうれしいのかなあ)と思うくらいとってもうれしそうにケタケタと笑っています。いよいよ、手の届く机の上(父と母は帰ってきたらまず荷物をそこに置くので荒れに荒れている)を片づけなくてはいけないと戦々恐々としています。



安藤 史郎(あかつきひばり園)

# 知っ得情報

## 手話でオンライン法律相談

松本 美津男

6月1日から全日本ろうあ連盟の新型コロナウイルス危機管理対策本部が、コロナで影響を受けた聞こえない人向けに、スマホかパソコンを使った弁護士相談を無料で来年3月末まで実施していますので簡単に紹介します。

### 〈内容〉

働きたくても仕事がない！給料が減ってしまった！解雇された！

どんな時に休業手当ってもらえるの？手話で弁護士に相談したい！

そんな声に応えるため、手話で聴覚障害者弁護士が無料でオンライン相談に応じる。

事前予約制。

◎相談は手話言語のみ。

◎1回の相談時間は30分だが、もっと相談したい場合は、弁護士本人と相談を。

◎具体的な相談内容は、オンライン相談の際に直接、弁護士に話す。  
〈申し込み方法〉

ホームページの入力フォーム、又は申込票をダウンロードし必要事項を記入の上、申し込む。

〈申込先〉全日本ろうあ連盟

FAX : 03-3267-3445 メール : [info@jfd.or.jp](mailto:info@jfd.or.jp) ホームページ

<https://www.jfd.or.jp/covid19/>

## あなたもぜひ 仲間に



サロン・サークル・地域活動展開中  
生活支援スタッフ(資格不要)募集中  
介護職員(資格要)募集中

ひとりぼっちの高齢者をなくそう  
元気な高齢者はもっと元気に

「よろず相談」承ります(随時)



あなたも支える存在に

京都市北区紫野東野町1-5  
電話075-432-3636

## 命の平等をかけた、 無差別平等の医療と 福祉の実現をめざす

### 働くひとびとの医療機関です

看護師・薬剤師・医師や医療技術者を

目指す方をご紹介ください



## 京都民主医療機関連合会

〒615-0004 京都市右京区西院下花田町21-3 春日ビル4階

TEL 075-314-5011(代) FAX 075-314-5017

Home Page <http://www.kyoto-min-iren.org>

e-mail: [info@kyoto-min-iren.org](mailto:info@kyoto-min-iren.org)

ありがとうございます

年会費 南下建一郎（19／20年度）・梅垣弥生

寄付 井上吉郎

（敬称略・2020/6/10）

## 僕にとっての「自立生活」（2回連載） （上）「非障害者」から「障害者」へ

### 二つの人生を歩む

僕は「二つの人生」を生きてきました。一つ目の人生を「生き」ました。二つ目のそれはいま現在で、「生き抜いて」います。一つ目の人生は、61歳が目の前だった「非障害者」としてのそれです。二つ目の人生は、2006年8月12日以降の、「障害者」としての今までです。2006年8月12日、僕は脳幹梗塞で倒れ、生死の境をさまよったそうです。以降、カラダに障害が残りました。障害者になって、変わったこともありますし、変わりのないこともあります。大きく変わったのは、「依存してこそ自立生活が送れる」という考えであり実態です。

### 「非障害者」としての道

僕は1945年（昭和20）8月18日、京都市上京区にある産院で生まれました。姉14歳、長兄12歳、次兄11歳、父43歳、母38歳が家族でした。1943年、44年の「京都五山の送り火」が燈火管制を理由に中止になるなど、「1億総動員」体制の下、戦争が「銃後」の庶民生活を直撃しました。女学校の教員だった父は、生徒を引き連れて軍需工場に向いていました。「朕ハ帝國政府ヲシテ米英支蘇四國ニ對シ其ノ共同宣言（ポツダム宣言／筆者注）ヲ受諾スル旨通告セシメタリ」との「終戦の詔勅」をラジオで聞いて、母は産院に入りました。長じてから、京都盆地が原爆攻撃の目標地であったことを知って、自分の運命の不思議さに驚いたことがあります。

いまでこそ、「憎まれっ子世にはばかる」状態ですが、生を受けた当時は「玉のような男の子誕生」で近在の人がこそって喜んでくれたそうです。「敗戦」の報に打ちひしがれていた人々にとって、僕の誕生は「希望」だったのでしょう。以来61年弱、僕は「非障害者」としての道を歩きました。

### 「障害者」としての生

脳幹梗塞で倒れて以降、僕は「障害者」としての生を生き抜いてきました。この間は、京都（2か所）、岡山、大阪、京都（2か所）の6病院であわせて16カ月の入院生活を送った前半の15か月と、在宅生活の今につながる後半に分けられます。

大きく変わったのは「社会」との関係です。入院生活中は「見舞客」を待つだけでした。「見舞客」が去ると、病室とベッドがマイワールドであり「受け身」の生活でした。「自立」とは程遠く、「生き抜く」ことがすべてでした。（（上）終わり。（下）に続く）

井上吉郎（WEBマガジン・福祉広場編集長）